

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

発行：吉田 淳

事務局：愛知教育大学理科教育講座 内

URL：<http://www.jsse.jp>

2009.4.15

NO.192

# 科学教育研究レター



## 目 次

- |  |                                    |
|--|------------------------------------|
| ■ 理事会だより<br>第235回理事会報告(案)..... 2                   | 平成20年度 第4回研究会<br>(中国支部)のご案内.....11 |
| ■ 年会<br>第33回年会案内(第4次).....4                        | 平成20年度 第5回研究会<br>(東海支部)のご案内.....11 |
| ■ 若手の会<br>若手の会開催案内.....8                           | ■ 学会員の皆様へ.....12                   |
| ■ 学会賞<br>32回年会発表賞決定!.....9                         | ■ 編集理事会だより.....13                  |
| ■ 研究会・支部だより<br>平成20年度 第3回研究会<br>(南関東支部)開催報告.....10 | ■ 国際交流委員会だより.....14                |
|  | ■ 広報委員会からのお知らせ.....14              |

日本科学教育学会第 235 回理事会報告（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時 2009 年 3 月 14 日（土）14:00 ～ 17:00  
会 場 ㈱内田洋行 潮見オフィス 8 F 会議室  
出席者 会長 吉田  
理事 飯島、岩崎、荻原、小倉、加藤、佐伯、  
坂谷内、丹沢、土田、中山、東原、益子、  
美馬、吉岡、吉川  
監事 松原  
年会企画委員長 高藤  
顧問 大木、北原

1. 議事要録（案）の承認

○第 234 回議事要録（案）が承認された。

2. 第 235 回理事会までの電子会議による審議事項

○なし

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○役員用メーリングリスト及び拡大役員用メーリングリストを事務支局のサーバで運用開始した（12 月 12 日及び 15 日）。

○日本学術会議より 12 月 5 日に依頼があったアンケート調査「新公益法人法への対応及び学協会の機能強化のための学術団体調査」に回答した（12 月 25 日）。

○学会 HP の役員及び幹事の分担表を 2008 年度版に更新した（1 月 9 日）。

2) 経理・会員

○入会希望者（～2 月 28 日）の電子メール審査について

事務局からの発議により、12 月 3 日までに入会を希望した 3 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（12 月 10 日）。事務局からの発議により、1 月 13 日までに入会を希望した 4 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（1 月 15 日）。

事務局からの発議により、2 月 12 日までに入会を希望した 3 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（2 月 21 日）。

事務支局より承認の通知および入会手続きの案内を行い、入会金・年会費の振込が確認された 16 名が正式に入会となった（2 月 27 日）。

○2008 年度中間決算について

会計担当より 2008 年度の中間決算について報告がなされた。

3) 機関誌編集

○編集状況については、以下の報告がなされた。

新規投稿論文（2009. 1. 27 ～ 2009. 3. 11）：6 編（内訳：和文；6 編、英文；0 編）

査読中論文：24 編（内訳：担当編集員選定中；1 編、第 1 回査読；9 編、再投稿待ち；8 編、第 2 回査読；6 編）

掲載決定論文：24 編（内訳：研究論文；4 編、招待論文；20 編）

○第 33 巻特集号は特集テーマ（案）「科学教育における他者との関わりへの分析・支援」と

- して提案があり、組織案等は引き続き検討を進めること、さらに本特集号は第34巻第2号(2010年6月)として刊行するとの説明がなされた。
- 「科学教育研究」の機関リポジトリへの対応、及び採択論文PDFデータの取り扱いについて意見が交換され、これらについては引き続き議論継続中であると説明がなされた。
- 4) 年会企画
- 第33回年会(京都大会)について  
年会テーマと趣旨、学会企画シンポジウム、学会企画課題研究、自主企画課題研究、招待講演「科学教育研究セミナー」などの企画の進捗状況の説明がなされた。
- 5) 研究会・支部
- 研究会開催の現状と今後の計画について報告された。  
第3回研究会まで順調に企画は進行していることが報告された。今後、5月には中国・四国支部会が、6月には東海支部会が開催の予定である。また、次回理事会までに、来年度の開催地区の選定に入る旨が報告された。
- 6) 広報・IT化
- レターの発行について  
レター189号から191号が発行された。また、Webサイトからのダウンロード数が少ないことが課題であることが報告された。
4. 協議事項
- 1) 退会希望者等について
- 退会希望者 8名が承認された。  
\*現在会員数1,306名 年度末退会者19名を含む。  
(正会員1,222名、学生会員70名、公共会員1名、賛助会員3名、名誉会員10名)
- 2) 九州支部福岡県の県会長、幹事の変更について
- 人事異動にともなう支部役員の変更について承認された。
- 3) 年会について
- 第34回年会開催校について決定された。  
第34回年会の開催校は、広島大学に決定され、今後、詳細を協議していくことになった。
  - 第34回年会開催校決定に伴う年会企画委員が選出された。
- 4) 特集号について
- 次回の特集号の編集計画が承認された。  
特集号のテーマ案についての協議の経緯、編集委員会特集部会の組織・構成案の概要が報告されるとともに、編集日程として、2009年5月末に会員への告知、同年9月末に投稿締切り、2010年6月発刊予定という計画になった。
- 5) 事務支局との本年度契約について
- 事務支局との2008年度契約について、速やかに実質的作業に入ることが承認された。
- 6) 事務支局との事務委託業務覚書について
- 事務業務委託覚書について継続的に検討することになった。
- 7) 別刷代の改訂案について
- 別刷代の値上げが承認された。  
新しい別刷代金は、本年(2009年)9月1日以降に新規投稿受付された論文に適用されることとなった。
- 8) メールマガジンの実施について
- 会員用向けメールマガジンを発行することが承認された。  
会員への情報提供のために、メールマガジンをスタートすることが提案され、承認された。なお、送信すべき内容か否かの判断については、当面、広報正副委員長と事務局長が判断し、運用するなかで、その基準を明確にしていくこととなった。
- 9) その他
- 平成21年度の筑波大学「科学の芽」賞の後援をすることが承認された。

次回理事会予定

第236回：2009年6月20日(土)14時から17時 内田洋行潮見オフィス 8F会議室

## 第 33 回年会案内（第 4 次）

## 1. 年会テーマ：次世代の科学力を育てる

趣旨：10年ぶりに改訂された学習指導要領は、本年度から移行処置が始まり、小学校では平成23年度から、中学校では平成24年度から完全実施される予定となります。今回の改訂では、PISA2006等の結果や平成18年12月の教育基本法の全面改定等を踏まえています。改定のポイントを見ると、従来の考え方やアプローチを振り返り、より一段の高みを目指す必要があると思われる。また、「知識基盤社会」の時代を担う子どもたちに必要な「生きる力」をはぐくむという基本理念の実現が求められています。

本年会では、前々回、前回でのテーマである「転換期の科学教育」での議論を踏まえ、次世代を見据えた議論を深めていくことが必要と考え「次世代の科学力を育てる」を年会のテーマとしました。

このテーマは、日本学術会議・若者の科学力増進特別委員会（第19期、委員長 北原和夫氏、2005年）の報告書の名称です。この報告書では“全ての日本人が科学リテラシーを持ち、科学と技術の成果を平等に享受し、また、科学と技術の健全な発展に対して責任をもつ社会を構築するため”としまして、いくつかの提言をおこなっています。提言の中では、「科学者が社会と対話するための基盤づくり」、「より良い科学教育の実現」、「科学者、科学教育学者、教育者との協働による、豊かな科学教育のグランドデザインを構築する」、「次世代の理科教員を養成するための支援」、「現役理科教員の教育支援」、教育環境向上のための支援」などが取り上げられ、何れも本学会への問い掛けとも取れる内容です。

本年会では「次世代の科学力を育てる」をテーマに、これからの「知識基盤社会」に求められる「科学力」について明らかにし、さらに、それを育てるための教育方法について議論します。

## 2. 日程：平成21（2009）年8月25日（火）～26日（水）

第33回年会は、例年と異なり、2日間の日程で実施します。大まかなタイムテーブルは次ページのように計画しています。

3. 会場：同志社女子大学、今出川キャンパス純正館  
(〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入)

## ・アクセス方法

JR「京都」駅から地下鉄烏丸線（国際会館行）に乗車して「今出川」駅で下車、3番出口（エレベーター有り）を上がって東（左手方向）へ徒歩5分。

<http://www.dwc.doshisha.ac.jp/access/access02.html>

## 4. 主催：日本科学教育学会、後援：京都府教育委員会（予定）、京都市教育委員会（予定）

## 5. 年会実行委員会

[委員長] 余田義彦（同志社女子大学）

[委員] 大黒孝文（同志社女子大学）、内村 浩（京都工芸繊維大学）、大西俊弘（龍谷大学）、小原 豊（立命館大学）、片岡佐知子（大阪大学）、鈴木真理子（滋賀大学）、他

[連絡先] 〒610-0395 京都市京田辺市興戸  
同志社女子大学学芸学部情報メディア学科  
余田義彦 E-mail：[jsse33@gmail.com](mailto:jsse33@gmail.com)

第33回年会 京都大会 タイムテーブル(案)  
 (於:同志社女子大学今出川キャンパス、2009年8月25日(火)～26日(水))

|                 | 前日<br>8/24(月) | 1日目<br>8/25(火)   | 2日目<br>8/26(水)                |                |
|-----------------|---------------|------------------|-------------------------------|----------------|
| 8:00            |               |                  |                               |                |
| 8:30            |               |                  | 受付                            |                |
| 9:00            |               | 受付               | 一般研究発表<br>(インタラクティブセッション(予備)) |                |
| 9:30            |               |                  |                               |                |
| 10:00           |               | 学会企画<br>課題研究発表   | インタラクティブ<br>セッション             |                |
| 10:30           |               | 自主企画<br>課題研究発表   |                               |                |
| 11:00           |               |                  |                               |                |
| 11:30           |               |                  |                               |                |
| 12:00           |               | 総会<br>(昼食をとりながら) | 休憩(1時間)                       |                |
| 12:30           |               |                  |                               |                |
| 13:00           |               |                  |                               |                |
| 13:30           | 委員会1          | 一般研究発表           | 招待講演                          |                |
| 14:00           |               |                  | 休憩(15分)                       |                |
| 14:30           | 委員会2          |                  | 学会企画<br>課題研究発表                | 自主企画<br>課題研究発表 |
| 15:00           | 理事会           |                  |                               |                |
| 15:30           |               |                  |                               |                |
| 16:00           |               | 休憩(15分)          |                               |                |
| 16:30           | 評議員会          | 学会企画シンポジウム       | 実行委員会・企画委員会<br>合同会議           |                |
| 17:00           |               |                  |                               |                |
| 17:30           |               |                  |                               |                |
| 18:00           |               |                  |                               |                |
| 18:30           | 若手の会          | 移動               |                               |                |
| 19:00           |               |                  |                               |                |
| 19:30           |               | 懇親会              |                               |                |
| 20:00           |               |                  |                               |                |
| 20:30           |               |                  |                               |                |
| 21:00           |               |                  |                               |                |
| 企業展示(3日間を通して終日) |               |                  |                               |                |

★上記タイムテーブルに国際交流委員会企画セッションが追加されます。

(2009-04-07版)

6. 発表申込期限と申込先

- (1) 自主企画課題研究：受付終了
- (2) 一般研究発表：平成 21 年 5 月 24 日（日）～ 6 月 14 日（日）  
⇒ 年会用 WEB（後日ご案内します）
- (3) インタラクティブセッション：平成 21 年 5 月 24 日（日）～ 6 月 14 日（日）  
⇒ [jsse-jishukikaku@freeml.com](mailto:jsse-jishukikaku@freeml.com)

7. 発表原稿の提出期限：平成 21 年 6 月 14 日（日）

8. 発表原稿の提出先

- (1) 学会企画シンポジウム：年会企画委員長（高藤清美）
- (2) 学会企画課題研究発表：各オーガナイザー
- (3) 自主企画課題研究発表：各オーガナイザー
- (4) 一般研究発表：年会 WEB
- (5) インタラクティブセッション：[jsse-interactive@freeml.com](mailto:jsse-interactive@freeml.com)

## 9. 参加申込

- (1) 参加の WEB 申込期間：平成 21 年 5 月 24 日（日）～ 8 月 8 日（土）
- (2) 参加費：一般会員：7,000 円、学生会員：5,000 円（年会論文集代を含む）の予定  
★年会費の早割り値引き：1,000 円引き、期限：8 月 8 日（土）振込分まで
- (3) 懇親会費：5,000 円の予定（懇親会参加者一律同額）
- (4) 振込先：【郵便振替口座】 番号：00970-4-321216  
名義：JSSE 第 33 回年会実行委員会  
★郵便振替に統一させていただきます。

10. 内容：次の内容を予定しています。

### (1) シンポジウム

テーマ：生活と科学を結ぶ

趣 旨：科学教育について、近年、学問の体系に沿った教育だけでなく、むしろ課題に基礎をおく（enquiry-based approach）ことによって動機付けと問題意識を喚起する方法に重点がおかれ始めている。生活の中のさまざまな課題について科学的な方法によって解決の糸口を見いだすことが、現代においてとくに求められているといえよう。そのような観点から、今回の年会のテーマ「次世代の科学力を育てるために」に沿って、シンポジウム「生活と科学を結ぶ」を開催する。

司 会：北原和夫（本学会顧問、国際基督教大学）

登壇者：内田麻理香（東京大学工学部、カソウケン（家庭科学総合研究所））

佐々義子（NPO 法人くらしとバイオプラザ 21 主任研究員）

竹盛浩二（広島大学附属福山中・高等学校副校長）

吉田 淳（本学会会長、愛知教育大学）

### (2) 招待講演「科学教育研究セミナー」

特定分野でアクティブに研究されている先生方をお招きし、会員向けに専門的なお話を聞かせていただく招待講演です。学会論文賞を受賞されました、① 三宅志穂氏（神戸女学院大学）、② 山口悦司氏（宮崎大学）のお二人にご講演を頂くことになりました。

### (3) 学会企画課題研究発表

#### ① ESD（持続可能な開発のための教育）関係

テーマ：新学習指導要領と ESD ー理科を事例としてー

趣 旨：2009 年は高等学校の学習指導要領が告示され、小学校から高等学校までの学習指導要領が出そろった。移行措置は 2009 年度から始まり、小中学校では、2012 年度に完全実施されることになる。今回の学習指導要領では中学校と高等学校の理科と社会科に「持続可能」という文言が明記され、学校教育における ESD に一定の根拠を提供したと考えることができる。

本課題研究では、新学習指導要領の下で、ESD の理念を教育の実践に具体化する方策や、実践に伴う課題等について、理科を事例として、小中高等学校の現場教師と ESD の指導的研究者に議論していただく。

オーガナイザー：荻原 彰（三重大学）、加藤 浩（放送大学）

登壇者：飯沼慶一（成城学園初等学校教諭）、川北裕之（千葉県立市川工業高等学校教諭）、

阿部 治（立教大学教授）、高城英子（千葉県松戸市立松戸第 1 中学校教諭）

#### ② 新学習指導要領関係

テーマ：新学習指導要領と科学教育研究：研究と実践の相互交流の視点から

概 要：本学会の目的は、「科学についての教育」及び「科学的・工学的手法による教育」に関する研究の進歩普及に資することである。では、新学習指導要領の実施という実践的課題に対して、これまでに蓄積している研究知見をエビデンスにして、どのような提言ができるだろうか。また同時に、新しい科学教育研究という研究的課題に対して、新学習指導要領という事態は、いかなる促進材料となるだろうか。本学会企画課題研究では、このような研究と実践の相互交流という視点から、

新学習指導要領と科学教育研究について議論する。

オーガナイザー：清水 誠（埼玉大学）

登壇者：数学教育：浪川幸彦（相山女学園大学）、理科教育：森本信也（横浜国立大学）、  
鈴木 誠（北海道大学）、情報教育：小泉力一（尚美学園大学）

指定討論：小川正賢（神戸大学）

(4) 自主企画課題研究発表（審査中）

以下に応募された企画について、テーマとオーガナイザーを示します。これらの企画の受理については、年会企画委員会で審査中です。

- ① 理科ねっとわーくを用いた学習効果についての研究：川村康文（東京理科大学）
- ② マンガという教育メディア：竹中真希子（大分大学）
- ③ e ラーニングからブレンディッドラーニングへ：宮地 功（岡山理科大学）
- ④ 数学教育での問題解決におけるテクノロジーの利用と創造性の育成（2）：垣花京子（筑波学院大学）、渡辺 信（東海大学）
- ⑤ 初等・中等教育における統計教育の改善に関する実践研究と今後の展開へ向けて：松元 新一郎（金沢大学）
- ⑥ これからの日本の統計教育の方向性を探る（3）（仮）：青山和裕（愛知教育大学）
- ⑦ 科学教育における学校現場での『学び合い』の実践的課題：三崎 隆（信州大学）
- ⑧ 新学習指導要領における数学的モデリングの位置づけ：松壽昭雄（鳴門教育大学）
- ⑨ これからの学校教育における説明・証明研究の展望 II：茅野公穂（信州大学）、宮崎樹夫（信州大学）
- ⑩ インタラクション・デザイン・学習：稲垣成哲（神戸大学大学院）
- ⑪ 数学的リテラシーという視座からの数学教育の再検討：岩崎秀樹（広島大学大学院）

(5) 国際交流委員会企画セッション

セッション名：世界に発信したい日本の科学教育

趣 旨：世界に発信したい日本の科学教育を再認識しよう。本セッションは、これから日本の科学教育が世界に何を発信していくかについて、異なる活動分野の話題提供者からの提案を受け、討論を通じて、分野横断的視点で日本の科学教育を再認識することを目指します。

オーガナイザー：小倉 康（国立教育政策研究所）

(6) 一般研究発表

発表時間は1件につき20分（発表15分、質疑5分）を予定しています。

- ・発表申込みと原稿受付期間：平成21年5月24日（日）～6月14日（日）
- ・原稿締切：平成21年6月14日（日）
- ・原稿提出先：年会 WEB
- ・筆頭発表者資格：筆頭発表者は会員でなければなりません。筆頭発表者での発表件数は1件です。

(7) インタラクティブセッション

ポスターや実演によって、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場です。具体的には、「アイデアは新しいが検証の途上である研究」や「新規性に欠けるが教育実践上有効性が高い研究」の発表や、「身の回りのものを活用した実験方法」や「自作による実験器具」や「シミュレーション、分析、記録などのコンピュータソフトウエア」など、教育実践の場で活用できる新たな実験方法や道具の実演をしながら、インタラクティブに語り合います。セッションは90分程度の時間を設定しますので、十分に時間をかけた議論が可能です。

- ・発表申し込みと原稿受付期間：平成21年5月24日（日）～6月14日（日）
- ・原稿締切：平成21年6月14日（日）
- ・申し込みおよび原稿提出先：[jsse-interactive@freeml.com](mailto:jsse-interactive@freeml.com)
- ・筆頭発表者資格：筆頭発表者は会員でなければなりません。

・原稿を提出する際には、メールに、テーマ名、担当者名、概要、連絡先をお知らせ下さい。また、インターネット利用の有無、電源利用の有無、その他の希望についても明記してください。ただし、条件によってはご希望に添いかねることもあります。

(8) 若手の会

「若手の会」の幹事を中心に企画を計画中です。詳しい内容等については本レター内の「若手の会」の項をご参照ください。

(9) その他の企画

総会、懇親会、各種委員会・会合等が予定されています。なお、第33回年会は、例年の年会に比べて日程が短いため、ワークショップはおこなわないこととしました。

11. 懇親会

懇親会は、同志社大学の寒梅館の1階にありますカフェレストラン「Hamac de Paradis (アマーク・ド・パラディ) 寒梅館」にて行います。

日時：8月25日(火) 19時～21時(予定)

会費：5,000円(予定)(参加者一律同額)

12. その他

最新情報は年会ホームページに掲載します。こまめに確認をお願いします。

・第33回年会ホームページ：<http://certcms.shinshu-u.ac.jp/jsseam/modules/note2/>

## 若手の会

**若手の会：前日・8/24の夜に集いませんか**

今年の「若手の会」は、リニューアルします。

(その1) 年会の前日、8/24(月)に開催します。

(その2) 若手同士のネットワークづくりを目的とします。

全国の科学教育関係者が集まる年に1度の機会を利用して、夜の京都で、お互いの興味・関心や今後の展望を語り合しましょう。

年齢制限はございません。「若手」とは、あくまでも「自称の若手」です。「自分はまだまだ元気だ」「自分はバリバリ活躍するぞ」という方々が、この会合の対象者です。

また、学会の非会員の方も参加できます。年会に参加予定の方、どうぞご参加ください。

若手の会に参加したら、翌日からの年会がさらにエンジョイできるはずです。

多数のみなさまの参加をお待ちしています。

■月 日：2009年8月24日(月)(年会の前日です)

■時 間：18時開始～20時終了(予定)



■場 所：京都市中京区（地下鉄沿線）（予定）

■会 費：6,000 円（予定）

■参加資格：

制限はございません。  
自称「若手」であれば、どなたでも参加できます。  
また、学会の非会員の方も参加できます。

■参加申込：

事前申込制です。  
なお、下記の点にご注意ください。  
(1) 会場手配などの都合上、下記の申込期間以外の受付は、原則としていたしません。  
(2) 申込後のキャンセルは、8月10日（月）までとします。  
(3) 8月10日以降のキャンセルや当日欠席の場合、会費を請求させて頂く場合があります。

■申込期間：2009年5月24日（日）～6月14日（日）

■申込方法：

下記の申込フォームに記入の上、*kaoyama@aecc.aichi-edu.ac.jp* までお申し込みください。

-----（ここから）

【申込フォーム】

氏名：  
氏名ふりがな：  
所属：  
メールアドレス：

申込先：*kaoyama@aecc.aichi-edu.ac.jp*  
-----（ここまで）

■第33回年会「若手の会」企画担当委員：

青山和裕（愛知教育大学）*kaoyama@aecc.aichi-edu.ac.jp*  
松浦拓也（広島大学）*takuyam@hiroshima-u.ac.jp*  
三宅志穂（神戸女学院大学）*kochimiyakeshiho@gmail.com*  
山口悦司（宮崎大学）*etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp*

## 学 会 賞

## 32 回年会発表賞決定！

第32回年会（2008年）の発表賞について、次の2件の発表をした3名の学会員に授与されることが決定いたしました。おめでとうございます。

- ① 縣 秀彦（自然科学研究機構 国立天文台）  
発表題目：市民とのリサーチ・コミュニケーション『アストロノミー・パブ』の評価
- ② 瀬戸崎典夫（九州大学大学院芸術工学府）、森田裕介（早稲田大学人間科学学術院）  
発表題目：高校生を対象としたVR教材の効果的な活用場面に関する検討

会員の皆様の候補者推薦へのご協力に感謝申し上げます。今回の推薦総数は60票でした（前

回 71 票)。選考委員会において、「会員からの推薦（自薦を含まない）」との規程により、有効票を整理した後、最高得票数 4 票の発表が 1 件、次いで 3 票の発表が 3 件、その他は 2 票以下の得票でした。上位 4 件の発表について、「科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の年会で発表した本会会員に贈呈する」、過去の受賞者においては「年会発表賞受賞後さらに優れた発表をした場合には、その発表について受賞対象とする」との選考規定に基づき慎重に審議し、候補となった学会員について、第 235 回理事会とメールでの審議を経て年会発表賞受賞者を決定いたしましたことをご報告いたします。3 名の学会員の今後の益々のご発展をご期待申し上げます。

(学会賞担当理事 美馬のゆり、小倉 康)

## 研究会・支部だより

### 平成 20 年度 第 3 回研究会（南関東支部）開催報告

表記の会は、平成 21 年 3 月 28 日（土）、東京学芸大学小金井キャンパス一般講義棟（N 棟）4 階で開催された。研究会のテーマは「新教育課程への移行と理数教育の充実」。南関東支部内外から 45 名余が参加し、計 6 件の研究発表と特別講演が行われた。

午前の研究発表では、中西 史（東京学芸大学教育学部）らが教員養成の立場から小学校教員を目指す学生の理科授業力向上のための取り組みについて報告し、小森栄治（日本理科教育支援センター）・田中修平（埼玉大学教育学部）・清水 誠（埼玉大学教育学部）が調べ学習が科学的リテラシーの育成に及ぼす効果について報告した。いずれの発表も、直後のフロアとの質疑応答を通して参加者相互の活発な討論へと発展した。

午後の研究発表では、算数・数学教育の立場から、佐藤 一（静岡県立御殿場高等学校）が新教育課程における高等学校数学の課題について、須田良子（神奈川県寒川町立旭小学校）が「統計資料の活用」の趣旨を生かした指導のあり方について、それぞれ報告した。続いて、理科教育の立場から、山下修一（千葉大学教育学部）・鈴木康代（鴨川市長狭中学校）が中学校 3 年「水溶液とイオン」で手づくり乾電池を取り入れた授業の開発と評価について報告し、宮本直樹（茨城県阿見町立本郷小学校）・大高 泉（筑波大学大学院人間総合科学研究科）がおもりの質量の異なる振り子実験におけるデータ解釈の現状について、とくにデータの取り方と処理の仕方に着目した研究成果を報告した。いずれの報告についても、発表直後のフロアとの質疑応答を契機に活発な意見交換がなされ、算数・数学教育、理科教育、双方の立場を超えて今日の教育現場が直面する諸課題に関する幅広い討論が展開された。

その後、若干の小休止を経て、大高 泉氏（筑波大学大学院教授）による特別講演「新教育課程のめざすものと理科の改訂」が催された。中央教育審議会教育課程部会が平成 20 年 1 月 17 日付答申をまとめるに至った議論の様子について、氏が主査を務めた理科部会の話題を中心にお話いただいた。内容は、子どもの学力の問題、新学習指導要領全体の改善の重点、学習指導要領改訂のポイント、そして、理科の改善点、と多岐に渡った。終了時間を 20 分程度延長して臨んだ公演後の質疑応答では大学関係者のみならず、学生、大学院生、教員、科学教育関連企業と多彩な参加者から質問がなされ、講演者にはその一つ一つに丁寧にお答えいただけた。

最後に、前日からの会場設営、資料の用意、当日の受付、進行（計時）、そして後片付けと、東京学芸大学の学生諸君には休日返上で献身的に動いていただいた。謝意を示したい。

(文責：東京学芸大学教育学部 平田昭雄)

平成 20 年度 第 4 回研究会（中国支部）のご案内

[テーマ] ブレンド型授業による教育の充実と新しい科学教育

[主 催] 日本科学教育学会中国支部

[日 時] 平成 21 年 5 月 23 日（土）10:30～16:10

10:00～10:30 受付  
10:30～10:40 開会挨拶  
10:40～12:00 研究発表（午前の部）  
12:00～13:00 昼休憩・支部総会  
13:00～14:20 研究発表（午後の部 1）  
14:20～14:40 休憩  
14:40～16:00 研究発表（午後の部 2）  
16:00～16:10 閉会挨拶

[会 場] 鳥取大学 生涯教育総合センター

〒680-8551 鳥取県鳥取市湖山町南 4 丁目 101 番地

アクセス方法：<http://www.tottori-u.ac.jp/> をご覧ください

[担 当] 杉本良一（鳥取大学 地域学部 地域教育学科）

[発表申込・原稿締切]

発表を希望される方は、「氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器」を明記した E-mail を 企画編集委員 杉本良一（鳥取大学、[sugi@rstu.jp](mailto:sugi@rstu.jp)）まで、お送りください。

発表申込〆切：平成 21 年 4 月 17 日（金）

発表原稿様式：発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします。

原稿送付〆切：平成 21 年 5 月 1 日（金）

原稿送付先：[sugi@rstu.jp](mailto:sugi@rstu.jp)（杉本良一）

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加できます。

[参加費] 学会員は無料、学会員でない方は 500 円です。

[連絡・問い合わせ先]

〒680-8551 鳥取県鳥取市湖山町南 4 丁目 101 番地

鳥取大学地域学部 Tel/Fax : 0857-31-5116 （杉本良一）

E-mail : [sugi@rstu.jp](mailto:sugi@rstu.jp)（杉本良一）

平成 20 年度 第 5 回研究会（東海支部）のご案内

[テーマ] 教師の資質開発とその方法／一般発表

[主 催] 日本科学教育学会東海支部

[日 時] 平成 21 年 6 月 13 日（土）10:00～16:10

10:00～10:30 受付  
10:30～10:40 開会  
10:40～12:00 研究発表（午前の部）  
12:00～13:30 昼休憩・支部総会  
13:30～14:50 研究発表（午後の部 1）  
14:50～15:00 休憩  
15:00～16:00 研究発表（午後の部 2）  
16:00～16:10 閉会

[会 場] 岐阜大学教育学部 講義棟 B202 教室

〒 501-1193 岐阜市柳戸 1-1

[担 当] 村瀬康一郎 (岐阜大学)

[連絡・問い合わせ先]

〒 501-1193 岐阜市柳戸 1-1

岐阜大学総合情報メディアセンター・情報メディア研究開発部門

Tel : 058-293-2347、2345 (村瀬康一郎) Fax : 058-293-3384

E-mail : [murase@gifu-u.ac.jp](mailto:murase@gifu-u.ac.jp) (村瀬康一郎)

[発表申込・原稿締切]

発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、  
連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を村瀬までお送りください。

発表申込〆切は、平成 21 年 4 月 13 日 (月) です。

発表原稿様式等については、発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします。

原稿送付〆切は、平成 21 年 5 月 13 日 (水) です。

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加できます。

[参加費] 学会員は無料、学会員でない方は 500 円です。

学会員の皆様へ

学会事務局

### 所属の移動などによる個人情報の修正手続きについて

一昨年 10 月から、庶務、会員・経理、編集等の事務局業務を中西印刷株式会社に業務委託しております。それに伴い、会員データベース・システムも中西印刷株式会社学会部に設ける学会事務支局において管理していただく体制になりました。あわせて、同社の個人情報保護ポリシーに基づき、学会 web に掲載されていた会員専用ページが廃止されました。

会員専用ページにおいて各会員が行っていた所属の異動などによる個人情報の修正は、中西印刷株式会社学会部内の学会事務支局にて行いますので、下記宛に随時ご連絡下さい。

日本科学教育学会事務支局

〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

中西印刷株式会社 学会部内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-Mail : 学会 web の問い合わせページ (事務局 (庶務) 宛の web メール)  
をご利用下さい。

平成 21 年度第 2 回編集理事会報告

平成 21 年 3 月 14 日（土）11 時 00 分～14 時 00 分、平成 21 年度第 1 回編集理事会が（株）内田洋行潮見オフィス 8F 会議室において開催されました。

まず、平成 20 年度第 1 回編集理事会議事録の確認と「科学教育研究」の編集状況の報告が行われました。新規投稿論文（2009.1.27～2009.3.11）が 6 編（和文；6 編、英文；0 編）、査読中論文が 24 編（担当編集員選定中；1 編、第 1 回査読；9 編、再投稿待ち；8 編、第 2 回査読；6 編）、掲載決定論文が 24 編（研究論文；4 編、招待論文；20 編）であることが報告されました。過去 1 年間の掲載決定状況などについては、別表をご覧ください。

次に、中山理事、鈴木副委員長から第 33 巻特集号について提案がありました。特集テーマ（案）は「科学教育における他者との関わりへの分析・支援」であり、テーマは概ね提案通りとし、組織案等は引き続き検討を進めることとしました。なお、本特集号の発行スケジュールについて議論した結果、第 34 巻第 2 号（2010 年 6 月）として刊行することとされました。

続いて、「科学教育研究」の機関リポジトリへの対応、及び採択論文 PDF データの取り扱いについて意見が交換され、これらについては引き続き議論を継続することとされました。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況（平成 21 年 3 月 11 日 現在）

|            | 新規投稿論文数（篇） |    |    |    | 掲載決定論文数（掲載号）         |          | 招待論文数（掲載号）                       |    | 掲載不可論文数 |    |
|------------|------------|----|----|----|----------------------|----------|----------------------------------|----|---------|----|
|            | 和文         | 英文 | 和文 | 英文 | 和文                   | 英文       | 和文                               | 英文 | 掲載不可    | 辞退 |
| 2008 年 4 月 | 3          |    |    |    | 1 (32-1)<br>2 (32-2) |          |                                  |    | 2       |    |
| 5 月        | 4          |    |    |    | 2 (32-2)             | 1 (32-2) |                                  |    | 1       |    |
| 6 月        | 1          | 1  |    |    | 3 (32-2)<br>1 (32-3) |          |                                  |    | 2       |    |
| 7 月        | 1          |    |    |    | 3 (32-3)             |          |                                  |    | 2       |    |
| 8 月        | 7          |    |    |    | 1 (32-3)             |          |                                  |    | 1       |    |
| 9 月        | 7          |    |    |    |                      |          |                                  |    |         |    |
| 10 月       | 8          | 1  |    |    | 3 (32-3)<br>1 (33-1) |          | 1 (32-3)                         |    | 1       |    |
| 11 月       | 5          | 2  |    |    | 1 (32-4)<br>1 (33-1) |          | 1 (32-4)                         |    | 2       |    |
| 12 月       | 3          | 1  |    |    | 2 (32-4)<br>3 (33-1) |          | 2 (32-4)                         |    | 2       |    |
| 2009 年 1 月 | 6          | 2  |    |    | 2 (32-4)<br>1 (33-1) |          | 2 (32-4)<br>1 (33-1)             |    | 1       |    |
| 2 月        | 5          |    | 22 | 4  | 1 (32-4)<br>2 (33-2) |          | 7 (32-4)                         |    | 7       |    |
| 3 月        | 1          |    | 20 | 4  | 1 (33-2)             |          | 6 (32-4)<br>2 (33-1)<br>2 (33-2) |    | 1       |    |

最後に、平成 21 年度に刊行予定の「科学教育研究」の巻頭言と編集後記担当予定者が決定されました。

今回の編集理事会は、平成 21 年 6 月 20 日（土）の 11 時から開催予定です。

## 国際交流委員会だより

### 国際学会・研究会の情報

- ① East-Asian Association for Science Education (EASE) の第一回研究大会開催について  
2007 年秋に設立され、本学会前会長の小川正賢氏が会長を務める EASE の初めての研究大会が、台湾の台北市で 2009 年 10 月 21 ～ 23 日に開催されます。研究発表の申込みは、大会 HP (<http://esciedu.nctu.edu.tw/ease>) よりオンラインで 5 月 31 日が締め切りです。
- ② ICASE (International Council of Associations for Science Education) の World Conference on Science and Technology Education 開催について  
世界の科学教育研究者が一同に集う ICASE の大会が、2010 年 6 月 28 日～7 月 2 日にエストニアのタルフ大学で開催されます。前回は、2007 年にオーストラリアのパースで開催されました。研究発表の申込みは、10 月 31 日が締め切りです。本学会員の参加を含むより詳細な情報について次号レターでお知らせする予定です。

(国際交流担当理事 小倉 康)

### 広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 192 号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会 web サイトにある「お問い合わせ」(web メール)をご利用のうえ、お知らせください。

|                  |                 |              |
|------------------|-----------------|--------------|
| 担当理事：東原義訓 (信州大)  | 荻原 彰 (三重大)      |              |
| 委 員：加藤久恵 (兵庫教育大) | 二宮裕之 (埼玉大)      | 土田 理 (鹿児島大学) |
| 丹沢哲郎 (静岡大)       | 渡辺政隆 (科学技術振興機構) |              |
| 小倉 康 (国立教育政策研)   | 久保田善彦 (上越教育大)   |              |
| 幹 事：福井智紀 (麻布大)   | 茅野公穂 (信州大学)     | 平野俊英 (愛知教育大) |

科学教育研究レター 編集・印刷

日本科学教育学会広報委員会

### 日本科学教育学会

### Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

事務局 愛知教育大学 理科教育講座 内

事務支局 (入退会・会費・学会誌発送関連) TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse@nacos.com](mailto:jsse@nacos.com)

編集事務局 (論文投稿・査読編集)

〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen@nacos.com](mailto:jsse-hen@nacos.com)

中西印刷 (株) 学会部 内

〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座 : 00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座 : みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会